



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2009年8月現在、川崎2、横浜5、県域11 計18名で活動中!!

～ '08 9/14 神通研集会報告⑨～

コーディネーターのまとめ

「手話サークルで起こる5つの問題」の順番付け。正解はありません。

各グループで全員が納得し、合意できていればよい・・・ということです。

周りの人の考え方や意見を聴けたかどうか。相手が言っている内容だけではなく、どのような気持ちを持っているのかがわからないと平行線のままで終わってしまいます。

自分の考え方を考えるべきかどうか。コミュニケーションしながら、日々の生活の中で考えることが大切です。

3つのコミュニケーション。自分の意見ばかり言っていなかったか、何か発言したか、なるほどと思いつつ意見を押し進めていたかという点があります。

サークルの目的は？役割は？活動は？

組織のルールやマナー、活動方針を明確にしておかなくてはなりません。

問題が起きたらその場で解決するようにしましょう。意見交換を活発にしましょう。日頃から意見交換をしていけば、小さな問題が大きな問題になることはありません。

～ 定例会 '09/7/26 (日) ～

9月の集会準備も追い込み時期に入りました。

講習会とサークルの大きな違いは？ろう者とサークル会員が講師と生徒の関係ではなく、手話がコミュニケーションの中心となっている地域のつながりの場・・・ということでしょうか。「手話を統一してほしい・・・」「交流会よりも学習会・・・」という生徒としての考え方から、目の前にいるろう者に何とか伝えたいという考え方に変わっていくと、聴こえない人たちとの距離が縮まるかもしれません。

【次回定例会】

8/29 (土) 13:10～15:00

県民活動サポートセンター 701

～サークル研究班メンバーのささやき～

エコ好きの私。ごみ減量とばかりに生ごみ処理機を買って、ポチと名づけました。

しかし、外食が多いわが家。出る生ごみの量が少なくポチはいつもおなかをすかせている状態。電気代を考えるとほんとにエコ？と考えてしまいますが、ポチにやる生ごみを出すために外食を控える今日この頃。

家計の減量はできているかな！ついでにわたしの減量も???

ペンネーム ポチの母